



## 平成十六年度「研究事業」の中間報告

(平成十六年十二月末現在)

本年度は、自主研究二件、  
受託研究一一件の計一三件の  
事業に取り組んでいます。  
このうち、受託研究二件の進  
捗状況を下記のとおり報告し  
ます。

### 1. 21世紀北海道の農協事業運営体制の再構築に関する調査研究

農協系統組織は、農業を取り巻く環境が激変するなかで、組合員のニーズに的確に応えられる組織、事業運営のあり方を再構築することが急務となっています。一方、農協は、農村地域コミュニティの中核的組織として、関係機関と連携しながら、より積極的な役割を果たすことも強く期待されています。

今年度の調査研究は、北海道農協の系統事業方式と農協事業改革について第三次アンケートを実施し、現在アンケート結果の解析を行なっています。また、道内・道外の先進事例調査を実施する一方、第一次アンケート（平成14年実施）・第二次アンケート（平成15年実施）の比較分析を行い、3年の調査・研究のまとめとして「21世紀北海道農協改革への提言」を行う予定であります。

### 2. 堆肥センターに関する運営実態調査業務

家畜ふん尿の利用は、資源循環型農業の確立やクリーン農業の推進のうえから重要な課題の一つであり「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」の施行にともない、地域で運営されている堆肥センター（共同堆肥処理施設）の役割にも大きな期待が寄せられています。

これらの状況を踏まえ、センターの運営や堆肥の利用拡大に向けた在り方を探るため、本年度は、①堆肥センターを利用するふん尿搬入農家、堆肥を利用する耕種農家の利用実態を把握するため「補足調査」を実施しました。②11月8日に「堆肥センター運営シンポジウム」を北見市で開催しました。③これらの結果を踏まえ、現在、堆肥センターの「運営改善方向の指針」の策定を行っています。



## 編集後記

災 二〇〇四年の「今年の漢字」は「災」であった。観測史上最多の一〇個の台風、新潟中越地震、猛暑に見られる記録的な天災と人質殺害、美浜原発事故、車のリコール隠しなどの人災のオンパレード。では過去一〇年間をブレーバック。〇三年「虎」、〇二年「帰」、〇一年「戦」、〇〇年「金」、九九年「末」、九八年「毒」、九七年「倒」、九六年「食」、九五年「震」と言える「健」であってほしいものぞ。

● ● ●  
健 「健康日本21」が進められています。正式名称は「二十一世紀における国民健康づくり運動」です。この運動の趣旨は、健康寿命

の延伸等を実現するために、二〇一〇年度を目標とした具体的な目標を提示すること健康づくりに関する意識の向上及び取組を促そうとするものです。この「健康寿命」とは何でしょうか。計算式は、平均寿命(健康が病気を別にして、あと何年生きられるか)から非自立的期間(健康を損ない自立して生活出来ない期間)を差し引いたものです。平均自立期間と言い換えても出来ます。男で平均寿命七八・四年/健康寿命七二・三年、女で八五・三年/七七・七年です。非自立的期間は男六・一年、女七・六年ですがこの期間を短くして自立期間を長くするには、健康寿命を延ばせば可能です。ではどうするか。医者のアドバイスを二つ。方法一 脳血管疾患などの要介護の原因となる疾患を予防すること方法二 趣味、運動、社会活動など心身ともに活発に暮らし、老化のスピードを遅らせること。楽しい二〇〇五年は、健康から始まります。健康寿命を延ばし元気に過

## DATA FILE

### 関連事項/DATA

**北海道立中央農業試験場**  
〒 069-1395  
夕張郡長沼町東 6 線北 15 号  
☎ 01238(9)2001  
FAX 01238(9)2060

**帯広市 農務部 営農課**  
〒 089-1182  
帯広市川西町基線 59 番地  
☎ 0155(59)2323  
FAX 0155(59)2448

**帯広市農業技術センター**  
〒 089-1198  
帯広市川西町基線 61 番地  
☎ 0155(59)2323  
FAX 0155(59)2448

**帯広市川西町農業協同組合  
農産部 別府事業所**  
〒 089-1184  
帯広市別府町南 18 線 32 番地  
☎ 0155(59)2241  
FAX 0155(59)2255

**株式会社 帯広市農業振興公社**  
〒 080-2336  
帯広市八千代町西 4 線 187 番地  
☎ 0155(60)2747

**帯広市八千代公共育成牧場**  
〒 080-2336  
帯広市八千代町西 4 線 187 番地  
☎ 0155(60)2747

**(社) 北海道地域農業研究所**  
〒 060-0004  
札幌市中央区北 4 条西 7 丁目 1  
☎ 011(281)2566  
E-mail: kaihou@chiikinouken.or.jp  
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp>

ごしまししょう。

● ● ●  
歯 「8020」(八チマル二イマル)。「健康日本21」で示されている目標で、八〇歳で二〇歯以上自分の歯を有する人の割合を増加していくものです。現状は、五〇歳以降では平均して二年に一本強の歯が失われており、六〇歳で一七・八歯と二〇歯を下回り、八〇歳以上の一人平均の歯数は四・六歯となっています。では何故歯が多いと良いのでしょうか。自分のかみ合わせる事が出来る歯の数

が多いほど、ぼけ防止になるからに他なりません。研究では、かむことは緻密な行為で、脳は指令をだして大いに働く、歯が無くなる と脳に通じる神経が無くなり脳が活性化される機会が消滅してしま う、ということが判明しています。今年、大いに歯に「注歯」しましょう。

● ● ●  
暦 一九四五年八月、太平洋戦争が終結して今年には六十周年です。二〇〇五年は戦後が「還暦」を迎えます。言い換えると戦後生

まれ以外は、皆還暦をすぎていることとなります。人口で見ても六〇歳以上は、〇四年十二月時点の総務省推計で、三、三六六万人で総人口(一億二、七七四万人)の二六%を占めています。四人に一人以上が還暦以上です。しかし、日本の個人金融資産は一、四〇〇兆円に及ぶと言われています。その大部分は六〇歳以上の高齢者に偏在していることであり、保有する資産がどのようなモノやサービ スに支出されるか、という点からも大きく国内経済を左右します。

このことから、戦前や戦中に生まれだした世代の影響力が無くなるとか、第一線からリタイアといつことには決してならないでしょう。

(川原和雄)

